

別記様式第2（第5条関係）

農の風景育成計画書（案）

1 育成地区の概況

申請者名	江戸川区	名称	鹿骨地域 農の風景育成地区
------	------	----	---------------

位置	江戸川区鹿骨一丁目及び二，三，四，五，六丁目、新堀一丁目の各一部
----	----------------------------------

育成地区の面積	90.5ha	育成地区の面積に占める割合	
うち農地の合計面積	9.5ha	10.5%	
うち生産緑地地区の合計面積	7.8ha	農地面積に おける構成比	82.1%
宅地化農地の合計面積	1.7ha		17.9%

※ 面積、割合及び構成比は小数第一位まで

育成地区の概観	
<ul style="list-style-type: none"> ・本地区は、江戸川区の東部、新中川に面し東側約1kmに江戸川が流れる地域に位置し、標高約1～2mの低地となっている。 ・かつては水田が広がる田園地帯であったが、昭和4年に現在の東京都農林総合研究センター（鹿骨一丁目）が開設され、戦後は土地改良事業により街区の基礎が形成された。 ・本地区の東側には南北に鹿骨親水緑道、流堀親水はなのみちが整備され、地区西側は新中川の堤防・河川敷の緑地及び水辺が、地区内の農地等とともに、水と緑のネットワークを形成している。 ・地区内には、旧鹿骨村の鎮守である鹿島神社や、圓勝院、密蔵院、本城寺、鹿見塚神社などの寺社があり、古木や大木も残されており、鹿島神社の例大祭など伝統文化が継承されている。 ・江戸川区は小松菜発祥の地であり、江戸時代から代々小松菜農家を営んできた農家も多く、本地区も区内で有数の小松菜栽培エリアである。 ・小規模な経営面積だが、効率の良い生産により、収穫物の多くは市場へと出荷される。 ・また、花卉栽培もさかんであり、朝顔、サクラソウ、春の七草の寄せ植えなどの草花が生産、市場等へ出荷されている。 ・このように、本地区内には販売農家が多く、ビニールハウスを中心とした農地が面的に存在する鹿骨特有の景観を作り出している。 ・一方で、都市型農業が盛んであるが、区域内には直売所が少なく、地元産の小松菜を地元民が購入する機会は限られており、農家と地元民との交流の場も限定的である。 	

育成地区を構成する主要要素の立地状況

- ・生産緑地…68件、7.8ha
- ・公園・緑地…鹿骨親水緑道、流堀親水はなのみち、新中川左岸緑地
鹿骨一丁目公園、鹿骨あさがお公園、鹿骨五丁目児童遊園、鹿骨グリーン広場、鹿骨四丁目公園、鹿骨二丁目児童遊園、鹿骨三丁目児童遊園、鹿骨花公園、鹿骨一丁目児童遊園、鹿骨さくら公園
- ・神社・寺院…鹿島神社、鹿見塚神社、圓勝院、密蔵院、本城寺
- ・教育施設…鹿骨小学校、松本小学校、鹿骨東小学校、鹿骨中学校
- ・公共の農園…区民農園4件（鹿骨第3、鹿骨第8、鹿骨第9、新堀一丁目）
- ・公共施設…鹿骨事務所、鹿骨区民館、なごみの家鹿骨、鹿骨健康サポートセンター、東京都農林総合研究センター江戸川分場
- ・その他…JA東京スマイル（東京スマイル農業協同組合）鹿骨支店
- ・えどがわ百景^{※1}…10件

No. 76 地域力 花咲き誇る新中川、No. 93 地名の由来 親子鹿像 鹿骨親水緑道、No. 97 旧鹿骨村の鎮守 鹿島神社のお祭り、No. 98 江戸川生まれの小松菜 日本一、No. 99 収穫の喜び 鹿骨ふれあい農園、No. 100 江戸川農の原風景 鹿骨、No. 102 杉にちなんだ斜張橋 大杉橋、No. 104 パチさばき必見 鹿骨区民館まつり、No. 135 河原道の記憶を残す 本城寺、No. 136 花のおもてなし 牡丹と蓮の圓勝院

（※1）えどがわ百景：区では、まちの魅力を更に高めるため、平成22年に江戸川らしさを象徴する120の景観ポイント（場所）を選定し、その後見直しを行い、平成30年4月より133の景観ポイントを「えどがわ百景」として位置づけている。

※ 育成地区を構成する主要要素の立地状況を示す図は、別紙、現況図のとおり

2 育成地区と既定の計画等との関連

別表第 1 に掲げる都市計画等	
<p>区域区分：市街化区域、市街化調整区域</p> <p>地域地区：①第一種中高層住居専用地域（建ぺい率 60%、容積率 150%）</p> <p style="padding-left: 2em;">②第二種中高層住居専用地域</p> <p style="padding-left: 4em;">・補助第 285 号線、補助第 286 号線、補助第 288 号線沿道（建ぺい率 60%、容積率 200%）</p> <p style="padding-left: 4em;">・鹿本通り沿道（建ぺい率 60%、容積率 150%）</p> <p style="padding-left: 2em;">③第一種住居地域</p> <p style="padding-left: 4em;">・鹿骨一丁目南側（建ぺい率 60%、容積率 300%）</p> <p style="padding-left: 4em;">・鹿骨街道沿道（建ぺい率 60%、容積率 200%）</p> <p style="padding-left: 2em;">④近隣商業地域（建ぺい率 80%、容積率 200%）</p> <p style="padding-left: 2em;">⑤準工業地域（特別工業地区）（建ぺい率 60%、容積率 300%）</p> <p style="padding-left: 2em;">⑥生産緑地地区（68 件）</p> <p>都市施設：都市計画公園・緑地（鹿骨四丁目公園、鹿骨六丁目公園、鹿骨町公園）</p> <p style="padding-left: 2em;">都市計画道路</p> <div style="border-left: 1px solid black; border-right: 1px solid black; padding: 0 10px; margin-left: 4em;"> <p>補助第 143 号線（柴又街道）</p> <p>補助第 285 号線（鹿骨区民館通り）</p> <p>補助第 286 号線（大杉橋通り）</p> <p>補助第 288 号線</p> </div> <p>市街地開発事業：江戸川東部篠崎付近土地区画整理事業（施行すべき区域）</p> <p>地区計画：鹿骨一丁目地区、南小岩南部・東松本付近地区</p>	
緑の基本計画	
<ul style="list-style-type: none"> ・「江戸川区みどりの基本計画（平成 25 年）」では、基本方針「みどりを守る」における方針 2「農を守り活用する」において、農地は本区の歴史を伝え、江戸川区らしい景観の形成、新鮮で安全な野菜、花卉の供給に加え、土と親しむ農のレクリエーションの場を提供等するものであることから、農地を農地のまま活かすための方策の強化を図るとしている。 ・また、施策の柱の一つに「農地の保全と活用」を位置づけ、その中で比較的まとまった農地や屋敷林を対象に「農の風景育成地区」に指定し、将来にわたって農のある景観を保全、育成するとともに、都市環境の保全、レクリエーション、防災等の機能を持つ空間として確保していくことを目指すとしている。 	
農業振興計画等	
<ul style="list-style-type: none"> ・「江戸川区農業基本構想（平成 30 年）」では、江戸川区農業の振興のための施策として以下の 5 つを挙げている。 <li style="padding-left: 2em;">①活力ある農業経営の育成を図る、②販売、流通の改善を図る、③地域住民とのふれあいの促進、④農家との交流を深め農のあるまちづくりを推進する、⑤農地の保全・有効活用 	

その他育成地区に係る行政計画等

- ・「2100年の江戸川区 共生社会ビジョン（令和4年）」では、江戸川区の目指す「ともに生きるまち」の姿において、「“農業”はみんなの食べ物をつくったり、地球温暖化を防いだりするだけでなく、人と人とのつながりを生み出す大切な役割も果たすようになっている」と示されている。
- ・「2030年の江戸川区 SDGs ビジョン（令和4年）」では、SDGs17ゴール毎の主な目標のひとつに「農の風景が守られている」を定めており、具体的施策として「江戸川特産農作物『小松菜』のPR並びにブランド化の確立」や「地域で農を守る仕組みづくり」を推進することが示されている。
- ・「江戸川区都市計画マスタープラン（平成31年）」では、「地域別構想」において鹿骨地域の主要方針として「農の風景の保全・育成」を掲げ、まとまった農地や屋敷林が集積する地区では、農業と住宅とが共存できる土地利用を誘導するとともに「農の風景育成地区」の指定を検討するとしている。
- ・「江戸川区景観計画（平成23年）」では、花卉栽培や野菜生産の農地が多く集積している東京都農林総合研究センター江戸川分場及び鹿骨事務所周辺を活かし、緑豊かなどかな雰囲気大切に景観まちづくりを進めるとしている。また、「農の景観拠点」に位置づけており、「農とふれあうまちなみの景観形成を図る」を目標とし、以下の景観形成方針を定めている。
 - ①農とまちなみが一体となった緑豊かな景観をつくる、②農とふれあい、身近に感じる景観をつくる、③本区の農業の歴史・文化を伝える

※ 別表第1に掲げる都市計画の決定状況を示す図は、別紙、都市計画決定状況図のとおり

3 育成地区における農の風景を保全及び育成するための方針

目標
<p>手をのばせば つながる ～歴史と農の広がるまち鹿骨～</p> <p>鹿骨の魅力である農と住環境が調和したまちなみを保全し将来へ継承するため、農家と地域住民、行政が協力して、魅力の発信や農を守る機運の醸成、農家の支援などを行い、地域連携により農の風景の保全に取り組む。</p> <div style="display: flex; justify-content: center; align-items: center; gap: 20px;"> <div style="font-size: 4em;">{</div> <div style="text-align: left;"> <p>手をのばせば . . . 身近なもの、行動しなければ触れられない</p> <p>つながる . . . 歴史、地域、世代、実り、体験 など</p> <p>広がる . . . 農地、空、人脈、未来、経験 など</p> </div> <div style="font-size: 4em;">}</div> </div>
取組方針
<p>【取組みの方針】</p> <p>①農を保全する機運の醸成や地域の魅力発信</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農の風景育成ワークショップ^{※2}を継続するとともに、区民が農にふれあう機会を充実させ、農を保全する機運の醸成を図る。 ・地域農業情報誌「小松菜力」や農産物直売所マップの充実、農地案内看板の設置、まちの回遊性向上のための仕組みづくりなど、利用者の意見を取り入れながら、地域連携により魅力発信する。 ・多様なイベントや情報発信により、より多くの区民や区外の人に対し鹿骨の魅力を効果的に発信する。 <p>②農家のやりがいの向上と農地の保全・活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各農家の生産物に対するこだわりの紹介や、農家の仕事を学ぶ機会の充実、地元農産物の流通促進や食育の推進などにより、都市農業への関心や理解を深める。 ・税制特例措置対象となる生産緑地の指定や営農支援施策の充実により、農家の負担を軽減して農地の保全を推進する。 ・農家の高齢化や労働力不足を補う農業ボランティアの取組みを推進する。 ・営農継続が難しい農地について、貸借制度の活用など担い手の確保に向けた取組みを促進し、地区内農地の保全及び減少の抑制に努める。 <p>③地域と連携した農の風景を保全する取組みの展開</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農家の小さな困りごとの解決から始める地域連携活動を展開する。 ・収穫体験や直売所ツアー、フードロスお助け隊など、地域と連携したイベントにより、区民が楽しめる交流型の農業を推進し、地域コミュニティの醸成を図る。 ・地域住民をはじめ、教育施設や児童福祉施設、なごみの家^{※3}や共育プラザなど、多様な主体が連携し、農の風景を保全する取組みを推進する。 <p>④農と区民がふれあう機会の創出、拠点の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・区民が農業を行う「区民農園」や、農家が育てた農作物の収穫体験をする「ふれあい農園」など、区民が農にふれあう取組みを推進する。

- ・地域と連携して区内産花卉を使用した花のみちづくりを行うなど、鹿骨の花弁栽培をPRするとともに、四季を感じる花のみちづくりを推進する。
- ・生産緑地において営農継続が困難になった場合には、農業公園等の整備や農家への斡旋を行い、農の風景の保全に努める。
- ・農業公園は地域との連携や交流の拠点として活用するとともに、農にふれ、学び、農家との交流を通じた農のファン（理解者、協力者等）の育成を行う。

【地域連携による取組みの展開にあたっての考え方】

- ・取組みの方針に沿った活動を展開するにあたっては、令和4年度に実施した農の風景育成ワークショップで出されたアイデア（別紙参照）を基に、次の考え方を基本として区民が農の風景の保全に取り組むことで、地域主体のみちづくりを目指す。

考え方1 農家のちょっとした困りごとからスタートする

考え方2 農家の困りごとのサポートを、区民の「楽しみ」や「学び」に変える

- ・地域連携による取組みを推進するための検討会議を立ち上げるとともに、農地を守る機運の醸成や多彩な活動のアイデアを取り入れるため、農の風景育成ワークショップを継続する。
- ・「農家の生業としての農業」を尊重しつつ、農家の負担にならない形で「区民がふれあう農業」の拡充を進め、両者のバランスを取りながら取組みを推進する。

【農業公園の整備にあたって】

- ・育成地区の目標を実現するため、様々なものをつなげるネットワークの要になることを目指し、次の3つの視点を持って整備する。
 - ①地域との連携や交流の拠点として活用する。
 - ②農に触れ、学び、農家との交流を通じた農のファンの育成を行う。
 - ③地域内の農地や既存施設と連携し、まち全体で機能を発揮する。
- ・本地区は小規模な農地が面的に広がっているという特性があるため、まずは小規模な分散型の農業公園を設け、農の活動及び活動支援のネットワークを鹿骨地域全体につくることを目指す。

（※2）令和4年度に開催したワークショップで、農の風景を地域連携により保全するためのアイデアや、今後のみちづくりの目標などの検討を行った。農家・農業関係者・住民等を対象とし、町会や関連団体等への声掛けに加え、参加者を地区の内外を問わず公募して開催した。（全体会4回、テーマ別検討会9回、延べ189人が参加）

（※3）年齢や障害の有無に関わらず、誰もが相談でき、気軽に集える地域の拠点として、区内9か所に設置されている。本地区内には、「なごみの家鹿骨」がある。

※ 取組方針を示す図は、別紙、構想図のとおり

(別紙) 鹿骨地域 農の風景育成地区 ワークショップによるアイデア集 100!

＜知って楽しむ＞ 農の魅力発信
(1) 鹿骨の名前の由来や歴史、産業の成り立ちの紹介
(2) 地域農業情報誌「小松菜力」による区内の農家特集
(3) 「小松菜力」を活用した学校での食育
(4) 「小松菜力」の手に取りやすい簡易版の作成
(5) 住民参加による読み手目線でのチラシやマップの作成
(6) 鹿骨直売所マップ、鹿骨の野菜が買える店マップ
(7) 作っている野菜の紹介などPR看板（POP）を農地に設置
(8) PR看板にQRコードをつけ、購入できる店など情報発信
(9) 農の看板デザインコンテスト
(10) 農業PRキャラクターの区民公募、区民投票
(11) 農業PRキャラクターを描いた工事壁の設置
(12) まちなか店舗シャッターでの農業PRキャラクター活用
(13) バスや屋形船のラッピングによる農業PR
(14) 区内出身の芸能人等と協力したPR活動
(15) 江戸川区の農業大使を任命してPR
(16) テレビ番組（旅・グルメなど）への申込み
(17) プロモーションビデオの作成
(18) YouTuberによる発信、拡散
(19) SNSによる情報発信
(20) 鹿骨の情報を発信するインフルエンサーの育成
(21) お寺でマルシェ、朝市、青空市の開催
(22) 農業機械のお試し体験会
(23) 不耕作地を耕して畑ラグビー
(24) 鹿骨スタンプラリー（直売所、神社など）の開催
(25) ビール祭りや激辛祭りなどを開催し、それにあう野菜料理を提供
(26) 区内のイベントに出店して農の風景をPR
(27) 旬の野菜をテーマにしたイベント開催
(28) 全国まちおこしイベントに参加し鹿骨の農をPR
(29) レシピコンテスト・料理グランプリの開催
(30) 小松菜を中心としたレシピ本やレシピカードの作成
(31) 小松菜グッズ（筆記用具、ふでばこ）の作成
(32) まちのキャッチコピーや農業公園にインパクトのあるネーミングで鹿骨をアピール
(33) ビニールハウスの多い道路を「小松菜街道」と命名
(34) ビニールハウスをデザインしパブリックアートに活用
(35) 小松菜検定の開催

＜農家の困りごとと区民の学びをマッチングする＞ 担い手や営農活動の支援
(36) 困りごとバンク（農家の困りごとを集約する仕組み）
(37) 困りごとお助け隊（農家の困りごとを支援する活動）
(38) 草取りなどできることからお手伝い
(39) 農家がやりきれない敷地内のみかんの収穫などを、区民が楽しみながらお手伝い
(40) 取れすぎ野菜や規格外品を活用する仕組みづくり
(41) 廃棄野菜を活用するフードロスお助け隊
(42) 廃棄野菜の収穫、運搬の仕組みづくり
(43) 農家の営業やマーケティングを区民が代行
(44) 障害者の適性に合った就労体験
(45) 農を活かしたひきこもり就労支援
(46) 農家と区民協力者の名簿を作って地域の連携を推進
(47) 会社員の週末農作業参画
(48) 地方への農村留学を活用した後継者の育成や交流の促進
(49) 農業をやりたい人を育てる農家の弟子制度
(50) 総合人生大学に農の学科をつくる
(51) 江戸川区の農や食文化を学ぶカルチャースクール
(52) 空ビニールハウスを料理教室などのイベントに活用
(53) 不耕作地を活用した農の学校

＜育てて、採って、食べて楽しむ＞ 農と区民が触れ合う農業体験の展開
(54) 農家軒先 買い物ツアーの開催
(55) 地元野菜の食べ歩きツアーの開催
(56) 地元野菜を使った料理教室の開催
(57) マルシェで農家野菜料理の提供
(58) マルシェや料理教室の会場として空き家を活用
(59) 道の駅+地産地消レストランの設置
(60) 自然と人が集まる地域交流の拠点となる直売所整備
(61) 自動販売機（小松菜缶詰、新鮮野菜）の設置
(62) 移動販売車を利用した地元の野菜・花の直売
(63) 小松菜サラダの販売店を増やす
(64) 小松菜料理の試食会の開催
(65) 気軽に江戸野菜を食べられる場所づくり
(66) 喫茶店などで鹿骨産の小松菜スムージーなどの提供
(67) キッチンカーによる収穫したその場で食べるイベント
(68) とれたて野菜を楽しめる畑併設のバーベキュー施設

(69) 江戸前の魚介と一緒に江戸川の野菜を屋形船で提供
(70) 自分で育てて食べる食育活動
(71) 街路樹ヤマモモの収穫体験
(72) 共育プラザや区役所など区施設に直売コーナー設置
(73) 土づくりから学ぶベランダ菜園やプランターでの野菜栽培

＜農の風景を未来につなげる＞ 子どもたちや地域との連携
(74) 未就学児から高校生までの発達に応じた農作業体験
(75) 農家による出張授業
(76) 学校の授業でオンラインによる農作業の実況中継
(77) 小松菜を軸とした授業プログラム（歴史、化学、生物、家庭科など）
(78) 農に関する部活をつくる
(79) 家庭科の授業や部活と連携した学生のレシピコンテスト
(80) 高校文化祭で地元野菜の提供
(81) 学校給食で地産地消
(82) 学校で農や食の標語募集
(83) 学校の校庭や屋上で野菜づくり
(84) 親子向けの野菜づくり体験、野菜づくり教室
(85) ひな祭りやこどもの日などの季節行事と連動した鹿骨ならではの農イベント開催
(86) 地域イベントと連携した収穫祭の開催
(87) ハロウィンイベントの開催（子どもたちが家々を訪れてお菓子のほか野菜をもらう）
(88) 区内産花卉を使った花のみちづくり
(89) 町会美化活動で農地も一緒に美化運動（草取り手伝い）
(90) 地元花卉を地域美化活動の謝礼などに活用してまちを花いっぱい
(91) 農の実情を知ってもらう勉強会（廃棄処分、流通事情等）
(92) 地元野菜などのフードドライブによる社会貢献
(93) スーパーでの廃棄野菜も含めたフードドライブの展開
(94) 災害時の農産物提供のためのルールや体制づくり
(95) 農地で防災訓練、ビニールハウスで炊き出し
(96) 江戸川区ならではのインド野菜の普及
(97) 外国の野菜や多国籍料理をきっかけとした国際交流
(98) 農をきっかけとした外国人など多様な人の交流機会創出
(99) ヴィーガン*向け減農薬野菜の普及
(100) 小岩のエリアマネジメントとの連携（小岩での直売や小岩発の産地巡りツアー）

*ヴィーガン：不可能でない限りで動物の搾取を避けるべきであるという主義（ヴィーガニズム）を持つ菜食主義者であり、動物由来の食品も口にしない